

ウスバフユシャク

5月に広葉樹の葉を食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長約23mm。体は暗い茶色または緑色。後から2番目のイボ状の脚の前に小さなイボ状の脚がある。

特にバラ科果樹に多いようで、リンゴでは害虫とされる。



1. 老齡幼虫，体長20mm。1991/6/1。3.
新得町，ハスカップ。



2. 雄成虫，体長7mm。1の幼虫を飼育。



4. 中齡幼虫，体長14mm。1992/6/1。
新得町，エゾノコリンゴ。



4. 雄成虫，体長7mm。3の幼虫を飼育。

【学名】 *Inurois fletcheri*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , シャクガ科 (Geometridae) , ホシシャク亜科 (Oenochrominae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州。

【特徴】

幼虫は終齢で体長23mm。体色には暗色型と緑色型がある。

クロテンフユシャクとフタスジフユシャクに似るが、緑色型は体の地色が白っぽくならない点と背面両側の2本の線が細い点により、暗色型は体の白線がかなり明瞭な点で区別できそうである。

緑色型は大害虫のナミスジフユナミシャクにも似るが、フユシャク類は腹部第5節に小さな腹脚を持つのでルーペを使えば識別

できる。

【生態】

宿主：ブナ科，ニレ科，バラ科，カエデ科，カキ科。道内ではエゾノコリンゴ，ハスカップで寄生を確認している。

年1化，本州の平地では成虫が12～1月に出現し，卵越冬といわれている。卵は枝上に数個ずつ産み付けられる。新芽の頃，幼虫は孵化する。

北海道の低山地では幼虫が5月下旬～6月上旬の若葉の頃に採れ，飼育したところ6月上～中旬に土中で蛹化，11月に成虫が羽化した。

【被害と防除】

果樹園のリンゴでは害虫とされ，発生が目立つ場合は防除が行われている。

道内では庭木などでも比較的多くみられることがあるが，普通，防除は必要とされない。

【文献】

1975. 佐藤力夫，中島秀雄. 日本産シャクガ科食草目録. I エダシャク亜科. 蛾類通信, Suppl. 2: 1-56.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

1986. 山口昭，大竹昭郎，編集. 果樹の病虫害，診断と防除. 全国農村教育協会，東京. (形態，生態，被害，防除)

1987. 杉敏郎，編. 日本産蛾類生態図鑑: 1-453, pls 1-120. 講談社，東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ウスバフユシャク shakuga/usubafu/
kaiset.html

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1996/1/4.

1yochu.jpg, 1seichu.jpg, 2yochu.jpg, 2seichu.jpg

「写真1～4」原秀穂，北海道立林業試験場，1991-1992.